

岡病防第21号
平成26年10月1日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したの送付します。

平成26年度病害虫発生予報第7号

平成26年10月1日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	トビイロウンカ	—	多
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	少
果樹	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病	—	少
	ハクサイべと病	遅	少
	軟腐病	—	やや多
	黒腐病	並	やや多
	コナガ	やや遅	やや少
	ヨトウガ	—	やや少
	アブラムシ類	—	並
	モザイク病	—	やや少
	ハスモンヨトウ	—	やや少
	ハイマダラノメイガ	—	やや少
	オオタバコガ	—	やや少
キク	ナミハダニ	—	やや少
	オオタバコガ	—	やや少

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査(南部地帯)によると発生圃場率は41.2%で、平年(19.5%)より高く、株当たり虫数は2.9頭で、平年(1.6頭)より多かった。

イ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 平成26年度植物防疫情報第4号(平成26年9月30日発表)参照

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は296頭で平年(2,185頭)より少なかった。

イ. 9月2～3日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は8.8%であり、平年(29.7%)より低かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは11頭で平年(119.8頭)より少なく、クサギカメムシは1頭で平年(2.1頭)並、ツヤアオカメムシは81頭で平年(77.9頭)並であった。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月25日の巡回調査によると発生圃場率は60.0%で、平年(92.7%)よりやや低かった。

イ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件となる。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月25、29日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、
本虫の発生を助長する条件となる。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容
発生量 少

予報の根拠

ア. 9月30日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月25、29日の巡回調査では発生圃場率が16.7%で、平年(23.3%)よりやや低かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を抑制する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容
発生時期 遅
発生量 少

予報の根拠

ア. 9月30日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月25、29日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(6.2%)より低かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を抑制する条件となる。

3) 軟腐病

予報内容
発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月30日の県予察圃場(ハクサイ)における調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月25、29日の巡回調査によると、ハクサイでは発生を認めず、発生圃場率は平年(5.9%、過去10年間のうち6年間は0%)並、ダイコンでは発生圃場率は33.3%で平年(27.6%)よりやや多かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件となる。

4) 黒腐病

予報内容
発生時期 並
発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月30日の県予察圃場(ハクサイ)における調査では、平年同様発生を認

めなかった。

イ. 9月25、29日の巡回調査によると、キャベツでは発生を認めず、発生圃場率は平年（3.7%、過去10年間のうち8年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件となる。

5) コナガ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年（0.7頭）並であった。

イ. 9月25～26日、29日の巡回調査によるとダイコン、ハクサイ、キャベツのいずれにおいてもコナガの発生を認めず、発生圃場率は平年（ダイコン30.1%、ハクサイ26.1%、キャベツ22.8%）より低かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月25～26日、29日の巡回調査によると、発生量は平年より少なかった。

イ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	並
	モザイク病	やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は517頭で平年（392.7頭）よりやや多かった。

イ. 9月25～26日、29日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイ、キャベツのいずれにおいてもアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年（ダイコン0%、ハクサイ2.5%、キャベツ2.5%）より低かった。

モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年（ダイコン16.5%、ハクサイ5.0%）より低かった。

ウ. 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

8) ハスモンヨトウ

予報内容 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は296頭で平年（2,185頭）より少なかった。

イ. 9月25～26日、29日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

ウ． 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容 やや少

予報の根拠

ア． 9月25～26日、29日の巡回調査によると発生量は平年より少なかった。

イ． 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

10) オオタバコガ

予報内容 やや少

予報の根拠

ア． 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(2.8頭)よりやや少なかった。

イ． 9月25～26日、29日の巡回調査によると、発生量は平年より少なかった。

ウ． 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 9月25、29日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(9.9%)より低かった。

イ． 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

2) オオタバコガ

予報内容 やや少

予報の根拠

ア． 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(2.8頭)よりやや少なかった。

イ． 9月25、29日の巡回調査によると、発生量は平年より少なかった。

ウ． 9月25日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高いとされており、本虫の発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。